

使用済みインクカートリッジの回収箱を設置しています

これから、新年に向けて年賀状の作成によりプリンタの使用機会が増えますが、使用済みのインクカートリッジが再利用できることをご存知ですか。

市では、ご家庭で使用したインクカートリッジを再利用するため、市内4カ所に回収箱を設置しています。

▼設置場所

- ・市役所 正面入り口
- ・御代志市民センター
- ・1階ロビー
- ・泉ヶ丘市民センター
- ・1階ロビー
- ・須屋支所
- ・対象メーカー
- ・キヤノン
- ・エプソン
- ・ブラザー
- ・ヒューレットパッカー



インクカートリッジ



この回収箱に入れてください

▼注意

- ・次のものは回収箱に入れないでください。
- ・業務用インクカートリッジ
- ・互換インクカートリッジ
- ・トナーカートリッジ
- ・電池
- ・インクカートリッジが入っていた箱や袋
- ・ごみ など



混入していたトナーカートリッジ

インクカートリッジは箱やビニールに入れる必要はありませんので、そのまま回収箱に出してください。

回収されたインクカートリッジは各メーカーでリサイクルされます。市で処理するごみの量も減るので積極的に活用してください。

参加者とのコミュニケーションを通じた気づきと発見 イラスト・マンガワークショップレポート

地域おこし協力隊通信

地域おこし協力隊 安在 渉

●問い合わせ先 合志マンガミュージアム ☎273-6766



7月から9月にかけて、合志マンガミュージアムで『カラーイラストを描こう』というテーマでワークショップを開催しました。専門画材で色を塗る経験を通して、色のパワーに触れることを目的としたお絵描きイベントです。

その中で、ある参加者の女の子との会話が特に印象に残っています。その子はキャラクターのぬり絵がとてうまく、プロのようなテクニックを使っていたのです。私は経験者だと思っていましたが、会話をしてみると、今まで専門画材を扱った経験がなく、色の塗り方を解説した動画を見て習得したことでした。

現在、子どもたちもインターネットに簡単に接続でき、イラストの練習にも活用できる環境にいるのだと痛感した瞬間でした。時代と共に変わっていくのはイラストの練習法も同じなのだと気づかされました。

参加者の子どもたちとのコミュニケーションを通じて、子どもたちのネットスタイルの一部を知ることができた今回のワークショップは、とても貴重な体験でした。今後、この合志マンガミュージアムのワークショップも、動画化・リモート化など、時代と共に変化させていくことを考える必要があります。

ことうし歴史発見

第73回

文化財 永田支石墓

今回紹介する史跡は、永田支石墓といい、弥生時代の墳墓の一種形式です。この永田支石墓は、二子山石器製作遺跡から北へ約200m離れた竹林の中にあります。昭和44年、鹿本高校他の考古学クラブが中心となり調査が行なわれ、地表面に置かれた2mの巨石の下から遺体を埋葬するための穴が発見されました。穴の中には人骨が残っていませんでしたが、この調査により弥生時代の支石墓であることが確認されました。

支石墓とは、弥生時代に朝鮮半島を経由して大陸より伝わった墓の形態です。墓標である巨石の下に穴を掘り、遺体を甕棺(甕を用いた棺)や石棺に入れたり、直接穴の中に埋葬したりすることで死者を弔う墓の形です。

このような埋葬の形は、福岡など北部九州に多いのが特徴です。県内では10カ所近く存在しており、その多くは合志川流域に見られるそうです。そのためこの永田支石墓に埋葬された人物も、当時の伝統的な引き継



▲永田支石墓



詳しくは左記の二次元コードよりご覧ください



いで葬られたのではないかと考えられています。

史跡を訪れる際は、大津植木線の野々島市民センターと西合志中央小学校の間あたりに案内板が立っていますので、目印にしてください。

●問い合わせ先(ヴィーブル) 生涯学習課 生涯学習班 ☎(248)55555